

短時間で堆積した砂州

■津波後、砂州は短時間で堆積した

7月30日に発生したカムチャッカ半島沖の地震により宮城県にも津波が到達した。7月31日に観察した際七北田川河口に存在していた砂州が存在せず（レポートNo447参照）、津波により持ち去られた可能性が考えられた。今回の調査では7月31日より水位は低い、2週間ほどの間に新たに堆積した砂州が観察された（Fig.1）。河口は閉塞しておらず海への通水は確保されている（Fig.2）。



（Fig.1 七北田川河口に堆積した砂州）



（Fig.2 七北田川河口）

■タカノケフサイソガニ

雄の鉗脚（ハサミ）に毛の房があるケフサイソガニの仲間にはケフサイソガニとタカノケフサイソガニが存在する。毛の房がハサミの外側が小さく内側が大きいケフサイソガニ，ハサミの内側・外側の毛の房の大きさが同じタカノケフサイソガニで区別される。今回採集した個体はハサミの外側・内側の毛の房の大きさに差が見られず，タカノケフサイソガニと思われる。なお，タカノケフサイソガニの腹部（ふんどしと呼ばれる）には黒点が見られない。

参考文献 鈴木孝夫 木村昭一 木村妙子 森敬介
多留聖典 著
干潟ベントスフィールド図鑑



（Fig.3 タカノケフサイソガニ）

（佐藤 賢治）